



舞踏するクマ

編集月旦 2013年2月号

★web「月刊文風」は、史上はじめてという「人生90年時代」を過ごしている現役シニアのみなさんとともに、新しい「モノ・場所・しくみ」をこしらえながら、安心して暮らせる「日本長寿社会（高齢社会）」をめざします。小さいけれど強固な情報拠点として活動してまいります。

☆デジタル誌のスタイルを工夫しています。奥行きの利用に利点があります。当月号からすべての既載分の検索ができるのは何よりの強みです。

★総理になった安倍晋三さん（58歳）には、成長し、成熟した社会の形成に向かって活躍している高齢者の姿が見えていません。そういう「日本長寿社会（高齢社会）」への認識は、安倍所信表明演説にはありません。そこで「高齢者参加」の立場で読んでみました。

☆アベノミクス効果は安倍政権に対する評価ではなく、未曾有の「天災人禍」に沈着に対応し、アジア途上国の近代化に技術・人材・資金を投じて尽力している日本国民に対する信頼と期待とねぎらいの表現なのです。大戦後の戦禍から立ち上がり、貧しさも豊かさも分け合いながら営々として働き、半世紀余にわたる平和を堅持して到達した国際的成功モデル「日本」に対してなのです。

★藤井裕久さん（80歳）は、東大野球部だそうですが、参議院から衆議院に移って「改革の党」とともに労苦を重ねてこられた姿は、ラグビー部のようなようです。昨年10月には霞が関の議員会館に、今年1月には港区白金台の事務所、いまに至る政治の側の「高齢社会対策」の延滞につきおうかがいすべくお訪ねした。古くから昵懇である毎日新聞政治部OBの尾崎さんと、現役を退かずに参議院での引きつづきのご活躍を要請した。

★本誌仮創の「賀寿期五歳層十五人会議」はぜひ実現しましょう。国際的快挙です。

★本誌では新たな時代の内容を盛るために、新しいことば（器）を用いています。世紀をまたいだ21世紀の初頭に歴史的快挙として達成するのが「日本長寿社会（高齢社会）」です。「20世紀後半期の社会」から「21世紀初頭の社会」へ。

「日本長寿社会」のパラダイムシフト

20世紀後半期の社会

- ・「人生65年時代」 →
- ・「二世世代+α型」社会 →
- ・支えられる高齢者・老人 →
- ・少子・高齢化社会 →
- ・ピラミッド型・瓢箪型人口 →
- ・団塊世代（昭和22～24年生） →
- ・青少年期に能力養成 →
- ・生涯学習 →
- ・国土の均衡ある発展 →
- ・標準家族・一人暮らし高齢者 →
- ・還暦・古希・喜寿・傘寿 →
- ・米寿・白寿・余生・

21世紀初頭の社会

- ・「人生90年時代」（65+25年人生）
- ・「三世代多重型」社会
- ・支える側の高齢者・現役シニア（丈人）
- ・高齢社会・長寿社会
- ・つりがね型人口
- ・平和団塊世代（昭和21～25年生）
- ・高齢初期（60～65歳）に2回目の能力養成
- ・地域大学校
- （とともに）・個性ある地域の発展
- ・三世代同居・近居
- ・自立・参加・ケア・自己実現・尊厳
- （国連「高齢者五原則」）

★一人ひとりが長寿を喜んで暮らせる「日本長寿社会（高齢社会）」の達成とアジアに住むみんなが力を合わせてつくる「アジアの共生（豊かさの共有）」の活動は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。（編集人・堀 亜起良 堀内正範 記） クロとまど ちあき

